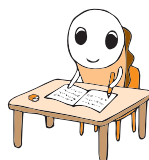




すぎなみ 教育報



No.191

平成20年12月3日

教育委員会ホームページ

<http://www.kyouiku.city.suginami.tokyo.jp/>

区公式ホームページ

<http://www.city.suginami.tokyo.jp/>

発行

杉並区教育委員会

杉並区阿佐谷南1-15-1

☎ 3312-2111 FAX 5307-0692

みんなで子どもたちを支える。

特別支援教育

従来の心身障害教育の対象となる障害だけでなく、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症等を含めて、障害のある児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行うのが「特別支援教育」です。特別支援教育は、学校・家庭・地域の方々が連携して取り組んでいます。今回は、学校の特別支援教育の現場で活躍している方々にお話をうかがいました。

子どもに「できた！」の自信を

学習支援教員

授業中、担任の先生を補佐し、障害等のある子どもが学習面でつまづいているとき、困っているときに声をかけ、わかりやすくアドバイスをしています。必要に応じて個別指導も行っています。学習支援教員は20年度から新たに配置しました。

お話をうかがいました。

「時間がかかる→できないを繰り返すうちに、自信を失ってしまう子がいます。それではいけない。時間がかかってもできたという自信を持ってもらいたいです。それはその後の人生にもつながると思います。」

地域から学校へ

学校

学校間の情報共有を図る

特別支援教育コーディネーター (済美養護学校)

済美養護学校が持つ情報やノウハウを、他の区立学校に提供し、共有するため、他校の特別支援教育コーディネーター等を通じて、障害のある子どもへの配慮についてアドバイスしたり、児童の副籍交流の相手校と、どうしたらその子が交流を深められるか話しあったりしています。

お話をうかがいました。

「交流するにも、障害や特別支援教育への理解が必要。みんなが関心を持ち、目を向けることが大切です。学校公開などに来ていただき、済美養護学校をもっと知ってほしいです。」

家庭から学校へ

授業中の子どもを優しく見守る

介助員ボランティア

通常学級で、授業中などに配慮を要する子どもの介助や、安全面の見守りを行っています。その名のとおり、学校教育の現場で子どもたちのために何かをしたいと区の募集に自ら応募した地域の人たちなどで、みなさん子どもが大好きです。

お話をうかがいました。

「ずっとそばにいて、と言われるのはうれしいことですが、『私は何もしてませんでしたよ、お子さんが自分でできましたよ!』と先生・保護者の方に伝えられるのが大事だと思います。付かず離れず寄り添いながら、何気ない、けれど適切な声かけをしていきたいです。」

「地域でも多くの方々に特別支援教育に関わってほしいです。子どもたちへの『いってらっしゃい、おかえり』のあいさつも支援の第一歩だと思います。」

地域

適切な「支援」のために
正しい「理解」を広めます

特別支援学級児 親の会 「木の実の会」

区内9つの小学校にある特別支援学級に通う子どもたちの保護者で組織する会です。特別支援学級同士、横のつながりを持って情報の共有を図っています。同時に、特別支援学級に通う子どもたちへの理解促進のため、リーフレット「手をつなご」の作成など、情報の発信にも努めています。

お話をうかがいました。

「特別支援学級の子、通常学級の子、そしてそれぞれの親が、お互いに接し、知り合うことが理解につながります。そのために、私たちの持つ知識や情報を、障害のある子どもへの理解のため、多くの方に知っていただきたいと思っています。」

学校や地域、教育委員会と手を携えて、一人ひとりの子への適切な支援を実現させていきたいです。」

家庭

「手をつなご」は教育委員会HP→特別支援教育→「手をつなご」にてダウンロードできます。

今回、特別支援教育を支える方々の一部を紹介しましたが、ほかにも多くの方々の協力を得て、実施しています。特別支援教育は、障害のある子どもへの教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々がいきいきと活躍できる共生社会の形成の基礎となるものです。教育委員会は、子どもたちや保護者、地域の皆さんが、共に分かり合い、共に生活していくことができるよう、関係機関と連携し、特別支援教育を推進していきます。

(中央のイラストは、特別支援教育のイメージを描いたものです。 作画:木の実の会 浅野礼子さん)

問合せ:学務課特別支援教育担当

ペン知る



南伊豆健康学園 園児募集

南伊豆健康学園は、伊豆半島の南端にあり、きれいな空気、温暖な気候、恵まれた自然の中で、健康の回復と体力の増進を図る全寮制の学園です。区内の小学校と同じ内容の授業を行いながら、自然環境を生かした指導や、児童一人一人に適した健康管理を行います。

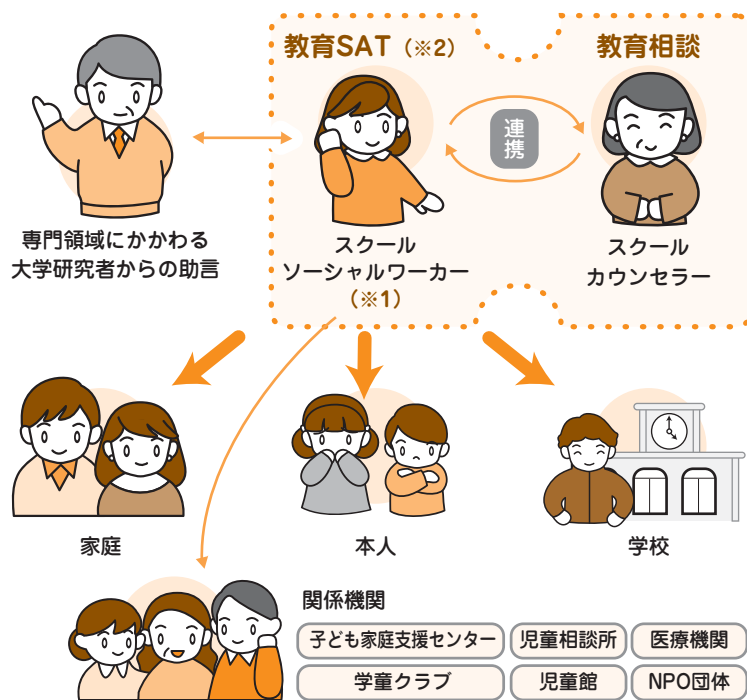
入園期間:平成21年4月～平成22年3月 費用:月額28,000円(食費、雑費) 対象:杉並区立各小学校に在学する上記入園期間中3～6年生(現在2～5年生)で、肥満やぜん息・偏食・虚弱のあるお子さん

申込み:平成21年2月2日(月)までに各学校に申し込んでください。 問合せ:学務課就学奨励係

学校・家庭・地域をつなぐスクールソーシャルワーカー

児童・生徒の不登校やいじめ、非行等、学校が抱える課題については、学校内の問題だけでなく、家庭等の問題（育児放棄、養育困難、家庭内暴力等）が原因となっている場合があります。原因が複雑化している課題については、学校の対応だけでなく、福祉や医療などの専門機関との連携・協力した対応が必要です。スクールソーシャルワーカーは、児童・生徒や保護者の相談に応じたり、専門機関とのネットワークを活用したりして、児童・生徒の生活環境の改善に向け活動しています。

スクールソーシャルワーカーの活動



- ※1 スクールソーシャルワーカーは、社会福祉や医療等の分野の多面的な知識や技術を有し、学校をベースにして支援活動を行う専門家で、SSWと呼ばれることもあります。
- ※2 教育SATとは、学校で起こる様々な課題に対して、学校支援を行う組織で、教育の専門家・心理の専門家・医師・スクールソーシャルワーカーで構成されているスクールアシストチームです。（SATは、School Assist Teamの略称）

対応例

（例）学校からの相談

深夜徘徊をしたり、家出をしたりする生徒がいます。学校では、担任が本人に指導をしたり、保護者と三者面談をしたりしていますが、なかなか改善が見られません。

学校から情報を集め、本人や保護者と面談を行い、非行の状況や原因を探る。

○本人の生活の改善に向けて、児童相談所や警察等へ協力を要請する。
○保護者を支援するために相談機関を紹介したりします。

●済美教育センター学校経営支援係、教育SATに所属されているスクールソーシャルワーカーにご協力いただき、現在の活動についてお話を聞きました。

Q. どのような対応が多いですか。

Q. 対応をするとき、何に気を付けていますか。

A. 不登校に対する対応の依頼を受けることが多いですが、原因や背景を探ると、いじめ・虐待・非行などの課題を含んでいる場合があります。

A. 子どもの気持ちに寄り添いながら、子どもが望む解決に向けて、面談をしたり、関係機関の協力を要請したりするなどの支援をしています。

問合せ：済美教育センター

「教育基本条例等」の制定に向けて

区では、次代を担う子どもたちがこれからの時代を生きていくうえでの羅針盤となる、区の教育の基本理念を明確にし、今後の杉並の教育を地域ぐるみで進めるうえでの拠りどころとなる、「教育基本条例等」の制定に向けた取組みを進めています。



有識者に意見をお聞きしました

(写真左から)

- ・小柴 昌俊氏 東京大学特別荣誉教授・名誉区民
- ・日野原 重明氏 聖路加国際病院名誉院長
- ・安藤 忠雄氏 建築家
- ・松岡 正剛氏 編集工学研究所所長

9月から11月にかけて、4名の有識者に「生きるうえで大切なこと」「国際化」「日本の伝統・文化」などをテーマにして、インタビューにより意見をお聞きしました。

それぞれのインタビューはとても実りのある内容で、人として大切にしなければならないことや身につけておきたい資質には、共通するところも多々垣間見られました。今回のインタビュー内容は小冊子にまとめ、来年2月頃に区民の皆様に配布する予定です。ご期待ください。

すぎなみ教育フォーラム2009

平成21年2月7日（土）13:00～16:30
場所：セシオン杉並ホール

3名の有識者に杉並区長も加わり、「地域ぐるみで教育立区をめざして ～学校・家庭・地域の役割と協働～」をテーマに、パネルディスカッションにより意見をお聞きます。

パネリストは、評論家の大宅映子氏、東京工業大学大学院教授の橋爪大三郎氏、山田宏区長です。コーディネーターには、慶応義塾大学大学院教授の金子郁容氏にお願いをしています。



大宅映子氏

橋爪大三郎氏

金子郁容氏

また、当日はパネルディスカッションの前に、地域運営学校（コミュニティ・スクール）と学校支援本部の実践校の取組も紹介します。入場は無料です。直接会場にお越しください（先着順）。

問合せ：教育改革推進課計画係

ペン知る



年の瀬にあつあつ・つきたてのおもちを味わおう 郷土博物館年中行事 もちつき

郷土博物館年中行事として恒例となった古民家でのもちつき。今年も堀ノ内松ノ木梅里大宮青少年育成委員会の皆さんと、大宮一丁目の自治会の皆さんの協力を得て開催します。昔ながらの臼と杵を使ったつきたてのお餅を、皆さんも味わってみませんか。もちつき体験もできるかもしれませんよ。（おもちは約100食分用意します。なお、ごみ減量のため、お箸・コップをお持ちいただきますよう、お願いします。）

期日：12月21日（日）参加費：博物館観覧料（100円）のみ ※中学生以下無料

問合せ：郷土博物館 ☎3317-0841

地域を知る。 地域と向き合う。 地域と歩む。

中学生という時期は、進路選択を始め、自らの将来について真剣に悩み、考え始めるときです。将来、杉並の地で自らの夢をかなえようとする人や、全国各地、世界各国での活躍を目指している人など様々とは思いますが、自らが学び育った地域は、生涯にわたり心の支え、よりどころになるはずです。

中学生が「地域」を改めて知り、自分には何ができるのかを考え行動することは、地域を愛し、大切にすることを心掛けてみます。また、地域の方々にとっても、中学校や中学生を知り、ともに地域のために行動することは、地域の力を高めていくことにつながります。

ここでは、地域と中学生のかかわりについて、3校の実践を紹介します。

宮前中学校・すこやかフォーラム



「おはようございます」宮前中学校の校門を入るとずらりとならんだ生徒たちに迎えられました。宮前中のすこやかフォーラム「育てよう！地域の心！」は生徒たちの代表と、青少年委員やPTAなど地域の方々との座談会です。地域の方々皆を驚かせた校門でのあいさつをきっかけに、「あいさつの大切さ」をテーマに話は進んでいきます。あいさつをしあうことが生徒（学校）と地域の信頼関係、協力関係につながることで、また、地域防災活動等の点で地域は生徒たちに期待していること。生徒たちも地域活動をやってみたいという意思はあること、「生徒会」の活動で終わるのではなく、他の生徒たちにも地域活動の機会を与えてほしいことなど。お互い「腹を割った」話が終わった後、地域の方々の「今日は来てみて本当によかった」という言葉がこのフォーラムの成功を物語ります。



中学生と青少年委員の強力タッグ！！

上述のすこやかフォーラムなどにも出席し、日々「地域の大人」として青少年教育の振興に尽力している青少年委員。そんな青少年委員の皆さんと中学生たちがタッグを組んで、小学生を含め地域内で異世代のふれあいの場を生み出そうと企画するのが「子ども地域活動促進事業」です。

中学生たちの自由な発想のもとドッジボールや福祉体験、部活紹介、コンサートなど事業はバラエティに富み、小学生にも人気のイベントとなっています。

この事業は各中学校区（中学校の通学区域を目安とした地域）で組織する地域教育連絡協議会（地教連）内に、中学生を主とする子ども実行委員会を設置し、教育委員会と共催で実施しています。青少年委員の皆さんは事務局として子ども実行委員会の活動支援にあたっています。

これから年末にかけてさまざまなイベントが開催されます。中学生と地域の大人が力を合わせて「地域」を考えたらどんな答えが出てくるか。皆さんも見に行ってみませんか。

問合せ：社会教育センター ☎3317-6621

《子ども地域活動促進事業 一覧（12月開催分）》

実施日	中学校区(関連小学校)	事業名	内容
12/3(水)	泉南(方南・新泉・大宮・清美)	友だちたくさん作ろうよ！ 泉南フレンドパーク	ハッスルドッジボール・ゲーム他
12/6(土)	井荻(桃一・四宮)	福祉体験	車椅子・点字体験・介助犬の話
	荻窪(桃三・井荻・桃四・松庵)	荻中WCF (ワインタークラブフェスティバル)	部活紹介・ミニ運動会
	高井戸(高井戸・高井戸東・浜田山)	ブレーメンの音楽会 in 高中	ミニコンサート
	東田(杉二・東田)	EニシングOK 2008 「きみも一日中学生!!」	部活体験・ゲームコーナー ・食べ物コーナー
	松ノ木(堀之内・松ノ木)	ふれあいコンサート	音楽を通して地域との交流
12/13(土)	宮前(久我山・荻窪・高井戸・高四)	宮前スマイル広場	吹奏楽・ダンス・模擬店他
	杉森(杉一・馬橋)	杉森祭2008	部活紹介・ゲームコーナー
	和泉(和泉・永福南・新泉)	さざんかフェスタ IZUMI2008	ゲームコーナー・食べ物コーナー ・舞台発表
12/20(土)	高円寺(杉四・杉三・杉八)	わくわく交流会	中学生の発表・ゲーム他

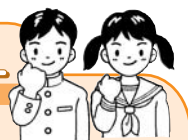
井草中学校・ようこそ先輩



「1期のときに植えた木がまだ残ってるんだって」「33期には21クラスもあったそうだ」「木造校舎の頃、雨の日には傘を差して授業を受けたりしいよ」そんな60年分の驚きを、井草中学校の1年生が60周年記念式典で発表しました。この驚きや発見をもたらしたのが、井草中学校OBの皆さん。

「ようこそ先輩」と題した授業の中で、井草中学校を卒業した8人の先輩が当時の学校生活を語ってくれました。先輩の話から、生徒たちが生まれる前の我が校の様子に思いを馳せ、井草中の歴史として心に留めてくれたことは、OBの方々にとっても、母校の後輩たちのために「忘れられようとしている何か」を伝える役目を果たしたことへの安堵と喜びとなったようです。

中瀬中学校・中学生レスキュー



地域の方々の「生徒たちが地域活動の中心になってくれたら」という思いと、生徒たちの「地域のために活動したい」という思い。11月2日、中瀬中学校の震災救援所訓練で中瀬中の「中学生レスキュー隊」(*)がこの二つの思いを叶えました。



各校のレスキュー隊が集まる合同訓練を始め、普段から地域防災のための経験を積んでいるから、地域の方々への震災時に使用する設備の説明や、煙体験など各種訓練への参加も積極的に行っています。また、訓練終了後の後片付けでも、「中学生の体力」が存分に発揮され、地域の方々から一目置かれる存在となったようです。

※杉並区中学生レスキュー隊は、救命救急技術をはじめ、災害時に役立つ知識・技能を身に付ける活動を通して、中学生の防災意識と地域貢献の意識向上を図ることを目的に編成され、現在15の区立中学校において活動を行っています。

本年度、教育委員会では、今後全中学校で展開していくことを視野に入れ、これまでの活動を検証しながら、さまざまな視点から今後のあり方などについて考えることを目的として、「杉並区中学生レスキュー隊将来ビジョン検討懇談会」を設置し、将来ビジョン等の検討を進めています。

～地域活動等で芽生えた問題意識をタネにして

「子どもに関する講座は平日の昼間が多いし、何かと仕事で忙しいママやパパが参加できる、魅力的な場もほしいよね」「切り口によって食に関する活動も様々あるけど、一般的には食品を手に入るまでの過程を知る機会がないように思うよ」

これらは、車座委員会（正式名称：社会教育事業推進委員会）での発言の一部です。

車座委員会は区民の参画と協働によって豊かに「大人の学びの場」をつくりだす仕組みや機会について話し合い、実践し、それを様々な事業にいかすため、社会教育センターが設置する委員会。

現在、先の発言をきっかけに、各分野で活動する委員がチームを組み、働くだけじゃない、家族との時間、ママパパ自身の時間から楽しい家庭の時間に結びつくワークショップや、見学も交え、流通面から日本の食事情を考えるセミナーなど、社会教育センターと一緒に取組みを進めています。

車座委員会は、原則毎月第4水曜日の夜6時30分から、セシオン杉並にて公開で開催しています。傍聴してみたい、委員になってみたい、ワークショップやセミナーに参加したいといった方は、ぜひ社会教育センター（☎3317-6621）へご連絡ください。

車座委員会が試みる！

〇 へん知る 杉並ユネスコ協会主催「ユネスコ教育フォーラム」 講演：ラオスは戦場だった～戦争、貧困、教育（寺子屋運動）を考える～

日時：12月7日（日）午後1：30～4：10 内容：1973～82年、インドシナ半島に滞在し、西側最後のジャーナリストとして、戦時下のラオス取材した竹内正右氏。インドシナ熟知の竹内氏に、ラオスの国政や戦争、そして戦争に翻弄された人々について語っていただきます。

場所：セシオン杉並 第8・9・10集会室（梅里1-22-32） 定員：80名（先着順） 費用：無料

お申し込み：直接会場へお越しください。 問合せ：杉並ユネスコ協会事務局（担当：国島） ☎03（3394）9482

走る喜びを つなげよう

杉並区中学校対抗駅伝大会2008の開催までもうすぐ。今年も区内公立・私立中学校26校が参加し、沿道の皆さんに走る楽しさと感動を伝えます。

今年度参加校のなかで、過去優勝経験校に駅伝の魅力、今大会にかける意気込みなどを聞きました。

問合せ：社会教育スポーツ課

杉森中学校



杉並区中学校対抗駅伝大会2004・2007女子優勝

駅伝の魅力は？：団結力が高まる／心をひとつにして戦うところ／たくさんの人に応援してもらえる！／みんなで協力し合える！／楽しめる！

今年の抱負を：（全員）優勝したい！（&全員区間賞！）ベストを尽くしてほしい。とにかく元気な子どもたちですから。（担当の先生）

佼成学園中学校



杉並区中学校対抗駅伝大会2005男子優勝

駅伝の魅力は？：（2年生のときに出場できなかったの）出られてうれしい！／公道を走れるところ／みんなで協力して走ることに僕は感動しています

今年の抱負を：出られることが一番。がんばりたい／しっかり走りきることを大事にしたい／区間賞を狙いたい！／応援して優勝させたい！来年は出たい！／先輩たちのフォームを見て勉強したい。優勝してほしい！

天沼中学校



杉並区中学校対抗駅伝大会2006・2007連覇中（男子）

駅伝の魅力は？：みんなで熱い思いのこもったタスキをつなぎ力を合わせてゴールするところ／短距離リレーとは違う長距離の面白さがある

今年の抱負を：天中の熱い走りをみんなに見せたい！／僕がしっかりした走りを見せます！（3年生）／今年の天中はやる気が違う！絶対優勝できると思う／今年は本当に最高のメンバー。12月14日は優勝したいと思います！

杉並区中学校対抗駅伝大会 2008

開催日時：平成20年12月14日（日）

開会式	午前9時30分
男子の部スタート	午前10時00分
女子の部スタート	午前10時10分
閉会式	午前11時30分

スタート・ゴール：都立和田堀公園競技場（大宮2-26）

※コース等は11月21日発行の広報すぎなみをご覧ください。

参加26校に熱い声援を！

応援する方をお願い！

自転車での併走は非常に危険です。絶対にやめてください。

－ 選手の通過に合わせ交通規制が行われます。ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。－

教育委員からの発信

5人の教育委員が意見を発信します。

教育委員就任にあたって

教育委員 大橋 辰雄



このたび、新しく教育委員をお引き受けする事になりました大橋辰雄です。平成二十年十月十一日付けで就任いたしました。区民の皆様よろしくお願い致します。私は子どもたちのためになる活動をし、学校、保護者、地域とともに現場で実践することを目的として、平成十七年度に杉並第一小学校のPTA会長を引き受け、その後三年半会長を務めました。並行して杉並区立小学校PTA連合協議会での活動、平成十八年度には杉森中学校運営協議会委員、平成十九年度には杉並区立小学校PTA連合協議会会長、平成二十年度には杉並第一小学校運営協議会委員、杉並第一小学校学校支援本部副本部長を務めさせていただき現在に至ります。

約四年間子どもたちと一緒に活動をしていく中で学校、地域、保護者、行政それぞれが子どもたちの成長を支援するべく活動してくださっている。これは本当に感謝する事だと感じました。しかし活動をしていく中で、目的が子どもたちのためである事からずれてしまっているように感じる事が多くありました。モラルやルールを無視する大人にも多く直面しました。個を大切にすることが、公がないがしろにされる。自分の常識が世間の常識ではないと思います。すみわけやバランスといったものが欠落しているのではないのでしょうか。すべての活動はいつも教育とはなんなのかという疑問にいきつくような気がします。私は子どもを教育するという観念から、子どもと共に育つという感覚「共育」が今必要だと感じています。子どもたちの環境を整えて健やかに成長させる責任は、私たち大人の責任です。私は教育委員としてこれまでの活動に伴う経験をもとに、保護者の立場からそれぞれの現場の声を聞いて、見て、尊重していきたいと思っています。私自身も目的は子どもたちのためである事を常に念頭に置き、微力ですが学び続けながらと考えておりますのでよろしくお願い致します。

ご意見をお待ちしています

「教育委員からの発信」をお読みになった方からの「意見を募集しています」。「意見は郵送、または区公式ホームページ（「生活ガイド」）↓「子供、教育」↓「教育委員からの発信」」にお寄せください。

教育委員会の動き（2009年9月～2009年11月）

【教育委員会開催状況】 定例会4回 臨時会3回 議案14件 報告事項13件

【主な案件】 ◎は審議、○は報告事項

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| ◎「杉並区立小中学校適正配置基本方針改定案」について | ○ 杉並第十小学校児童転落事故に関する調査報告 |
| ○ 体育施設における次期指定管理者の選定方法について | ○ 区立和田中学校給食調理室における事故報告 |
| ○ 地域運営学校（コミュニティ・スクール）の指定校の内定について | |
| ○ 平成20年度杉並区学力調査、意識・実態調査結果について | |
| ○ 平成20年度全国学力・学習状況調査結果について | ○ 平成21年度地域図書館の業務委託について |
| ○ 学校希望制度の申請状況 | ○ 大宮前体育館移転改築設計者の選定結果と今後の進め方について |

●再生紙を使用しています